

2018. 9. 3

学校法人平和学園
平和学園小学校
2018年度 学校だより 第6号
〒253-0031
神奈川県茅ヶ崎市富士見町5-2
Phone 0467-87-1662/0131
Fax 0467-87-0411
サイト <http://www.aletheia.ac.jp/s/>

平和の花

一人ひとりの内側に

年間聖句

「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」
コリント信徒への手紙一 13章13節

夏休みを迎える時には、楽しいことの計画ややってみたことなどへの思いが胸いっぱい広がります。子どもたちにはこれからの長い夏休みへの不安より、いろいろな経験を積んでほしいと願って夏休みがスタートしました。

平和学園小学校の子どもたちは、どのように夏休みを過ごしたのでしょうか。2018年の夏休みが子どもたちにとって豊かな時間になっているであろうと想像しつつ、私たち教職員は過ごしていました。これから始まる二学期も、ともにつくる学校生活の中で、一日一日が小さな平和の花をたくさん咲かせられる一人となるように、祈りながら過ごしていきたいと思えます。

また、今年の夏も自然災害、それも想定外の災害に愕然とすることがありました。それだけではなく小さな子どもの命が巻き込まれるような事件事故もあり、保護者の皆さまは不安や心痛むニュースに悩まされたことでしょうか。だからこそ、一人ひとりがしっかりと地に足をつけて毎日を過ごしていくことが大切なことなのではないでしょうか。

この夏を振り返ると、私は電車で移動することが多くありました。毎回電車に駆け込むようでしたが、「ふう～」と一呼吸して周りを見ると、皆携帯電話と向き合いながら目的地に向かっていました。様々なことを調べている人、小説を読む人、友だちとラインをしている人、音楽を聴いている人など、人それぞれ携帯電話の使い方はきっと異なるでしょう。しかし、電車に駆け込むように乗った私には、みんな同じように見えました。なんとなくこの光景に寂しさを感じました。しかし、そう思いつつも何か連絡が入っているかしらと、つい携帯電話を開いてしまう自分にも気づかされ、慌てて携帯電話をしまう経験をしました。

また、自分の気持ち次第で社会の見え方、かかわり方が違ってくるという体験もしました。きっと、夏休み中の子

どもたちの生活にも、気をつけていないと気づかないような変化があったかもしれません。大人は一日を過ごす子どもの姿を一生懸命に見たり、子どもと話したりする中で、「ちょっとした成長」「ちょっとした変化」を分かってあげたいですね。

「わたしのこれらの言葉を聞いて行うものは皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。」

マタイによる福音書7章24節

二学期にも大切な行事、学習、日々の生活が詰まっています。忙しい毎日に流されたり、自分のことばかりになったりだけでなく、ともに生きる仲間への思いなどを心に留めながら、歩んでいきましょう。私たちは神さまにつながっているのですから、不安や心配も、喜びも、悲しみも、一人ではないことを信じる大切さも伝えていきたいと思えます。

二学期もよろしく願いいたします。

